

1 沿革



北海道室蘭保健所旧庁舎



建築科の実習風景



機械科の実習風景

北海道庁立室蘭建築工補導所から北海道立室蘭公共職業補導所へ（昭和20年代）

- 昭和 21. 12. 7 **北海道庁立室蘭建築工補導所**として、室蘭市天沢国民学校内に開設
（御前水町2丁目19番地）
22. 1. 18 **北海道庁立室蘭職業補導所**と改称
22. 11. 11 **北海道立室蘭職業補導所**と改称
23. 4. 1 **北海道立室蘭公共職業補導所**と改称
23. 12. 1 機械科新設（定員25人、期間1年）
24. 4. 1 北海道室蘭保健所旧庁舎（輪西町278番地）へ移転
27. 4. 1 機械科定員30人となる
28. 4. 1 機械科定員40人となる



昭和31年に完成した新庁舎風景



昭和36年修了式



昭和45年完成 塗装科実習場

北海道立室蘭職業訓練所から北海道立室蘭専修職業訓練校へ（昭和30～40年代）

31. 4. 1 庁舎、機械科実習場、寄宿舍新築移転（東町1丁目28番）
33. 4. 1 溶接科新設（定員30人、期間1年）
33. 7. 1 **北海道立室蘭職業訓練所**と改称
34. 4. 1 機械科定員45人、溶接科定員40人となる
34. 4. 15 溶接科実習場新設、室蘭職業訓練所訓練種目拡充期成会から寄附受納
36. 4. 1 構造物鉄工科新設（定員40人、期間1年）
39. 4. 1 配管科新設（定員40人、期間1年）、構造物鉄工科定員45人となる
39. 12. 7 配管科実習場及び寄宿舍（青雲寮）新築
41. 4. 1 機械科定員40人、構造物鉄工科定員40人となる
42. 2. 13 構造物鉄工科実習場室蘭市から寄附受納
44. 4. 1 定時制溶接科新設（定員30人、期間6月）
44. 10. 21 **北海道立室蘭専修職業訓練校**と改称
45. 12. 19 塗装科実習場新築（東町3丁目1番）

- 46. 4. 1 塗装科新設（定員 30 人、期間 1 年）、定時制溶接科定員 40 人となる
- 47. 10. 27 実習棟新築（機械科、溶接科、配管科、構造物鉄工科）
- 49. 10. 11 管理棟新築



旧庁舎風景



室蘭技能祭のにぎわい（昭和 50 年頃）



新庁舎全景

北海道立室蘭高等職業訓練校から北海道立室蘭高等技術専門学院へ（昭和 50 年代～現在）

- 50. 4. 1 定時制溶接科定員 30 人となる
- 54. 4. 1 **北海道立室蘭高等職業訓練校**と改称、建築科新設（定員 30 人、期間 1 年）
機械科定員 30 人、構造物鉄工科定員 30 人となる
- 54. 9. 12 屋内体育館新築
- 54. 9. 26 寄宿舍（青雲寮）新築定員 40 人（その後定員 20 人となる）
- 54. 10. 26 建築科実習場（教室）新築
- 55. 4. 1 構造物鉄工科定員 40 人となる
- 56. 3. 31 定時制溶接科廃止
- 62. 12. 17 観光ビジネス科実習場新築
- 63. 1. 1 **北海道立室蘭高等技術専門学院**と改称
- 平成 1. 4. 1 観光ビジネス科新設（定員 30 人、期間 1 年）、溶接科定員 30 人となる
- 3. 4. 1 構造物鉄工科定員 30 人、配管科定員 30 人となる
- 4. 4. 1 機械科定員 20 人となる
- 6. 4. 1 構造物鉄工科定員 20 人となる
- 9. 3. 13 観光ビジネス科実習場改築
- 17. 4. 1 溶接科定員 20 人となる
- 18. 4. 1 寄宿舍（青雲寮）廃止
- 19. 4. 1 建築科廃止、構造物鉄工科を溶接科に統合し定員 20 人、配管科定員 20 人
塗装科定員 20 人となる
- 21. 3. 31 観光ビジネス科廃止
- 22. 4. 1 能力開発総合センターの設置
- 26. 3. 31 短期課程の廃止に伴い、配管科、塗装科廃止
- 28. 8. 30 旧室蘭アカデミーセンター（みゆき町 2 丁目）を室蘭市より譲受（現 管理棟）
- 28. 12. 12 実習棟新築（みゆき町 2 丁目）
- 29. 3. 31 溶接科・機械科廃止
- 29. 4. 1 北海道立室蘭高等技術専門学院庁舎（輪西地区みゆき町 2 丁目 9 番 5 号）へ
移転、2 年制課程訓練開始（通称名：室蘭ものづくり能力開発校）
金属加工科・精密機械科新設（定員各科 15 名、期間 2 年）
- 令和元. 9. 10 道内の道立高等技術専門学院で使用する愛称が「MONO テク」に決まり、当学院の
愛称は「**MONO テク 室蘭**」となる。
- 3. 8～4. 6 管理棟改修工事実施
- 4. 4. 1 金属加工科、精密機械科定員 10 名となる